

[59]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2339138>

出版情報：文學研究. 59, 1960-03-20. Faculty of Literature, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



彙報

○目加田誠教授 昭和三十四年六月一日附文学部長に再任された。

○福田良輔教授 昭和三十三年八月一日九州文学会会長に就任された。

○中村幸彦教授 昭和三十三年四月一日天理大学より本学に來任された。

○永田英一助教 昭和三十三年十月八日文部省在外研究員として渡仏された。

○春田和男助教 昭和三十四年七月二十八日琉球政府の招聘による講習会講師として出向、同年九月二日帰任された。

○サウスワース講師 昭和三十三年十月一日フルブライト講師として來任、昭和三十四年六月三十日退任された。

○ハーバート教師 昭和三十三年十月一日外国人教師として來任された。

○レーヴェンフェルター教師 昭和三十四年四月一日外国人教師として來任された。

九州文学会談話会

○「源氏物語の劇化」 今井 助教

昭和三十三年二月十二日

於 学部長室

○「紅樓夢について」 目加田 教授

昭和三十三年三月二十四日 於 大会議室
○「独逸の抵抗文学」 西田 助教

昭和三十三年五月二十八日 同
○「アメリカのユーモアについて」 毛利 助教

昭和三十三年七月二十四日 於 学部長室
○「鯨の歴史」 中村 教授

昭和三十三年九月二十七日 同
○「フランス喜劇閑談」 進藤 教授

昭和三十三年十二月六日 於 大会議室
○「オールダス・ハクスレー『Ape and Essence』について」 前川 教授

昭和三十四年五月十三日 於 学部長室
○「独逸文法の新しい傾向」 高橋 教授

昭和三十四年十一月二十五日 同

九州大学文学部文学関係講義題目

昭和34年度第一学期(自昭和34年4月 至昭和34年10月)

言語学

概論 吉町 助教

アメリカ言語学

国語学・国文学

概論 福田 教授

(演習) 万葉集卷二十

(演習) 古代語の語構成について

(講義)	日本文法(文法史の諸問題)	春日 助教	(講義)	Shakespeare: Julius Caesar	〃
(演習)	打聞集	〃	(演習)	G. Chaucer: Works.	〃
	近世文学史(元禄期より)	中村 教授	(講義)	十八・十九世紀の英国文学	ハーバート教師
(演習)	俳諧七部集	〃	(講義)	D. H. Lawrence: Sons and Lovers.	〃
(演習)	西鶴の小説	〃	(講義)	A. Huxley: Crome Yellow	〃
(特研)	比較文学の諸問題	春日 助教			
(講義)	つれづれ草下	〃	(講義)	Kyd: Spanish Tragedy.	(分校) 後藤 教授
	平安朝文学史(物語文学を中心として)	今井 助教	(講義)	M. Hamade: Selections from American Authors	〃
(講義)	源氏物語	〃	(演習)	Book One.	(分校) 多久和 助教
(演習)	八重葎	〃	(演習)	R. L. Stevenson: The Strange Case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde.	(分校) 井坂 教授
	中国文学	目加田 教授	(演習)	L. Sterne: Tristram Shandy.	(分校) 茗荷 教授
文心雕龍					
(演習)	楚 辞	〃			
(演習)	中国演劇史	浜 教授	概 論	独語・独文学	
			(講義)	講義(演習)	西田 助教
(講義)	英語学・英文学	毛利 助教	(講義)	中高ドイツ語	高橋 教授
(講義)	ガーディナー著Speech & Language	前川 教授	(演習)	ドイツ文学史概説	〃
(講義)	John Milton	〃	(演習)	会 話	ローヴェンフェルダール教師
(講義)	C, Dickens; Martin Chuzzlewit	〃	(講義)		〃
(講義)	E. D. Jones: English Critical Essays	〃	(演習)		(分校) 石中 教授
	XX Century. II.	〃			
(講義)	J. Austen: Emma	毛利 助教	(講義)	仏文学	
(講義)	G. B. Shaw: Pygmalion	〃	(演習)	Cornelle研究	進藤 教授
(演習)	中島文雄著「近代英語」の文体	〃	(演習)	(A) Brunetière: Les Epouques du théâtre français	〃
(講義)	アメリカ現代詩	サウスワース教師			

(B) Sainte-Beuve; Causeries du Lundi

(特研) Molière; Don Juan.

(講義) マリヴォー研究

(演習) ボワロー「詩学」

(講読) ポール・クローデル「シードとの書翰集」

(講読) Madame de Staël De l'Allemagne

(講読) ボードレル「悪の華」

(講読) カミュ「ペスト」

古代語

ギリシャ語初歩

西蔵語初歩

ラテン語初歩

外国語

中国語演習

中国語(三年・四年)

英語

英語

英語 W. S. Maugham: First Person Singular.

独語講読

仏語スタンダール著「赤と黒」

露語

概論
アメリカ言語学
吉町 助教授

概論
国語・国文学
福田 教授

(演習) 万葉集
春日 助教授

(演習) 古事記
春日 助教授

(講義) 文法史の諸問題
中村 教授

(演習) 打聞集
中村 教授

近世文学史
春日 助教授

(演習) 国性爺合戦
春日 助教授

(演習) 西鶴の小説
春日 助教授

(特研) 比較文学の諸問題
今井 助教授

(講義) 方丈記
今井 助教授

(講義) 平安朝文学史(物語文学を中心として)

(講義) 枕草紙
今井 助教授

(演習) 後撰集
今井 助教授

中国文学
目加田 教授

(講義) 文心雕竜
目加田 教授

(特研) 詩品の研究
目加田 教授

(演習) 楚辞
目加田 教授

(演習) 中国演劇史
目加田 教授

英語・英文学
目加田 教授

(講義) 安倍「英語スピーチ・メロディ教本」
毛利助 教授

(講義) John Milton
前川 教授

(講読) W. Hazlitt: Table Talk,
前川 教授

言語学

昭和34年度第二学期(自昭和34年10月
至昭和35年3月)

(講義) E. D. Jones : English Critical Essays 19th Century.

(講義) ヴェトホナー

西田 助教

(講義) G. Gissing : The Private Papers of Henry Ryecroft.

(演習) 中世ドイツ語

レューベンフェルダール教師

(演習) B. Jonson : Plays.

(講義) ドイツ文学史概説

レューベンフェルダール教師

(講義) Bennett : The Old Wives' Tale.

(講義) H. Carossa : Geheimnisse der reifen Lebens.

石中 教授

(講義) R. L. Stevenson : Treasure Island

(講義) フランス演劇史

進藤 教授

(演習) R. Macaulay : The World my Wilderness.

(演習) (A) L' Abbé Prevost : Manon Lescaut.

進藤 教授

(講義) K. Sisam : Fourteenth Century Verse and Prose.

(演習) (B) Beaumarchais : Le Mariage de Figaro.

進藤 教授

(講義) T. S. Eliot : Selected Essays.

(特研) Scribeの戯曲

佐藤 教授

(演習) G. B. Harrison : A Book of English Poetry.

(演習) マリヴォー研究

佐藤 教授

(演習) J. O'Hara : A Family Party.

(演習) ボワロー「詩学」

石 助教

(講義) { E. Hemingway : A Farewell to Arms.
H. James : The Ambassadors.

(講義) ポール・クローデルの散文

石 助教

(講義) 独語・独文学

(講義) ヴェルレーヌ詩抄

城野 助教

(講義) 独逸文典

(講義) カミュ「ナスト」

シャロー講師

(講義) 文芸理論

(講義) キリシヤ語初歩

藤沢 助教

(講義) Lessing

(演習) 西蔵語初歩

伊原助 教授

(演習) Scherer

(演習) 梵語初歩

東光 講師

(演習) Scherer

(演習) ラテン語初歩

東光 講師

外国語

中国語演習
中国語(三年、四年)

英語

英語

英語講読

英語 フィリップの弟

露語

中国語初歩

英語初歩

英語初歩

露語初歩

影山 講師

ハーバート 教師

西原 助教

山川 助教

城野 助教

吉町 助教

影山 講師

林 助教

弓削 助教

吉町 助教

国語学・国文学関係

一、語文研究8号(昭34・2)

浄瑠璃「蟬磨呂」と「蟬丸」

万葉集における対句の場合の訓について

上代におけるエ列乙類の性格

書評

野村望東尼全集を読む

笹籭友一著「浪漫主義文学の誕生」

杉浦正一郎著「芭蕉研究」

(紹介) 目加田さくを編註「平仲物語」冷泉為相筆

細川文庫目録

語文研究第9号(昭34・9)

横山 正

鶴山 久

森山 隆

春日 政治

重松 泰雄

大内 初夫

宝曆明和の大阪騒壇―列仙伝の人々―
旅人の表現―特にその孤独をめぐって―
風土と用字―上代における「湖」について―
中村 幸彦
瀬古 確

いわゆる説話文学の文学的価値
蕉風俳諧美の理念についての一考察
八木 毅

―さび、しをり、細みについて―
井手 恒雄

露伴と鶴外―観面談と寒山拾得―
田尻 竜正

漱石における自然
瀬里 広明

語彙「肥前から薩摩へ」
立川 昭二郎

一、昭和三十三年卒業論文発表会(昭34・2・8)
上村 孝二

(学部) 紀 長谷雄研究

一条攝政御集研究

古代歌謡における待遇語

出羽弁集研究

無名草紙について

宇治拾遺物語に関する研究

芭蕉の発句推敲をめぐって

筑紫万葉試論

浮雲論

佐藤春夫論

加藤道夫論

上代清濁音考

狂言の落ち分類

藤野 哲哉

須藤 知子

狩野 英彰

飯田 光恵

埴生 美穂子

太田 恵美子

石川 八朗

土屋 叔子

岩坂 実

有川 恭子

与田 邦彦

原口 裕

石井 巳津司

大和物語研究

(大学院修士課程)

水間沾徳の研究

有島武郎論

一、九大国文学会総会並びに研究発表会

(昭34・5・17於法文経第七演習室)

芭蕉発句の「さびし」とその推戴

在唐記の解釈をめぐって

—サ行頭子音とダ行バ行頭子音の場合

所謂形容詞の補助活用「カリ」について

—「恐有」の訓をめぐって—

宇鹿の付句十四体と野坡の俳諧廿一品について

蕉風俳諧美の理念についての一考察

清少納言の詠歌放棄

研究室蔵点本二種

一、第九回西日本国語国文学会(昭34・10・16~17両日

於 北九州大学)

(第一日)

助動詞「つろう」—その方言化について—

大伴坂上郎女試論—その文学の歴史的 성격について—

別府女子大学 古庄ゆき子

戸畑中央高校 徳満 澄雄

源氏物語における色好みの再検討

長崎工業高校 篠崎 久 躬

古賀 幸子

白石 悌三

江頭 太助

石川 八朗

鶴 久

大内 初夫

田尻 竜正

目加田 さくを

春日 和男

速水春曉伝致

和泉式部日記の歌一首

—「をり過ぎて」の歌の解釈—

幸田露伴と儒学

桃園兵部卿宮考—大和物語成立研究のうち—

無常観・無常感

地方文学研究の提唱

(第二日)

方言学的意味論

現存落窪物語成立考

現代詩における比喩表現の消長

公開講演会

万葉歌表現の歴史的意義

驚流狂言について

文学以前

一、成瀬正勝講師臨時講義

東京大学成瀬正勝教授は昭和三十四年十月二十四日から二十

九日まで「近代文学史」を講義された。

中国文学関係

〇中国文芸座談会

鹿兒島大学 教育学部 浜田 啓介

山口大学教育学部 福井 照之

直方高校 瀬里 広明

熊本女子大学 迫 徹朗

福岡女子大学 井手 恒雄

九州大学文学部 中村 幸彦

加治木財務事務所 山田 実

佐賀竜谷短大 志津田 藤四郎

熊本女子大学 山本 捨三

佐賀大学教授 中原 勇夫

山口女子短大教授 石川 弥一

北九州大学学長 古野 清人

中国文芸座談会

中国文学関係

〇中国文芸座談会

中国文学関係

第五十九回(昭和三十四年二月) 於(九大文学部会議室)

柳宗元 倉員峰雄
趙樹理論 中屋敷 宏

第六十回(同) 於(九大文学部会議室) 五月

嵯康の詩にあらわれた飛翔のイメージについて 林田慎之助

孟東野の社会詩 上尾竜介

第六十一回(同) 於(九大法文経演習室) 六月

人民公社についての小説 高向洋人
西都賦に見えたる雑伎 浜一衛

第六十二回(同) 於(九大文学部会議室) 九月

臧克家論 秋吉勝広
巴金と茅盾の文章について 邦須清

○日本中国学会

日本中国学会第十一回大会は、昭和三十四年十月十日、十一日日本文学部において開催された。全国各地からの参加者は二百十五名に達した。

(第二日) 十月 日

一、開会式 十一番教室

二、研究発表(経学思想の部と文学語学の部にわかれて行なわれたが、ここには関係だけを記す以下同じ)

1 民国後期における教育指導方針についての一考察

大村 興道

2 経典釈文礼記音義中に見られる陸徳明音の特質について

占部 玄海

3 「何為」について

三迫 初男

4 古文における被動式「為……所」について

尾崎雄二郎

5 「把」の意味論的考察について

川本 邦衛

6 非科学的な語源論議を改めよう

藤堂 明保

7 王国維のいわゆる境界について

近藤 光男

8 王世貞の調劑論―その一、南北文学の折衷

松下 忠

9 東坡の詩画論について

船津 富彦

10 玉台新詠と万葉集―特に修辭表現について―

古沢 未知男

(第二日)

一、研究発表

1 異史氏曰考

藤田 祐賢

2 金瓶梅と紅樓夢

村松 暎

3 無窮会本水滸伝に対する一考察

白本 直也

4 永嘉の四靈とその周辺

荒井 健

5 宋詩の地位

吉川 幸次郎

二、討論会

唐代文学における伝承と創造

司会

平岡 武夫

入矢 義高

花房 英樹

三、絵会

四、記念写真撮影

五、懇親会

英文学関係

○日本英文学会

第三十一回全国大会が三十四年六月十三、四両日関西西大学において開かれた。研究発表のうち本学関係に次の通り。

A Study of Cat on a Hot Tin Roof

福岡大学 船津辰巳 (28年卒)

○ブランドン氏講演

日本英文学会出席のため来日中の氏を招き次の題目にて、六月二十日講演会を開いた。(於本学)

A Comment on This Century

○本学名誉教授中山竹二郎氏来福 六月二十五日歓迎会

独文学関係

○レーヴェンフェルダー教師来任

ドクトル、ゲルトラウト・レーヴェンフェルダーは三十四年四月文部省独逸人教師として、本学に招聘された少壮の学者で、独逸では「オペラの初りより国立劇場創設(一六五一年—一七七八年)に到るミュンヘン宮廷劇場の舞台装置」について学位を受けた婦人。三十四才。二年間九大に滞在の予定。

○日本独文学会(一)

日本独文学会第十三回総会並びに研究発表会は、昭和三十四年五月十六、十七日、東京教育大学において開催された。

○日本独文学会(二)

日本独文学会秋季研究発表会は、昭和三十四年十一月七、八日

京都大学主催の下に、同大学において開催された。

仏文学関係

○昭和三十四年度卒論発表会(三月四日、第一演習室)

(学部)

サルトルについて

ボードレールと「悪の華」

マルセル・ブルーストー人と作品一

アンドレ・ジイドー人と作品一

アルベール・カミュについて

「ジャン・クリストフ」を中心にしたロマン・ローラン

フランソワ・モリアック

アントワヌ・ド・サンテクジュペリ

(大学院)

B・コンスタンとシャリエール夫人

○日本フランス文学会昭和三十四年度総会(於明治大学)

六月六日(土) 研究発表会・総会・懇親会

六月七日(日) 研究発表会・分科会

本学からの研究発表は

「Lucien Leuwen に於ける interventionisme に就いて」

大学院博士課程 太田和男

○九州フランス文学会第八回総会(於九州大学) 十月三十一日

(土)

研究発表会

形成の理論からみたアンドレ・ジイド

九大大学院生 高橋 良 応

「ボヴァリー夫人」制作期におけるフローベル

九大大学院生 岡崎 暉子

ひとつの反指定—ヴォルテール研究の一出発点として—

九大大学院生 荻野 雅弘

用例からみたラ・ブルイテール 北九州大講師 坂本 勲

エミール・ゾラとジャンヌ・ロズロ

純真女子短大助教授 常岡 晃

チュルギーにおける進歩と自由の思想について

西南大教授 岩根 典夫

なお、特別報告として、二年半の滞仏を終えて五月下旬帰国された九大講師弓削三男氏の、「フランス雑感」と題する談話があった。

公開講演会

智慧の塑性—フランス精神に関する省察—

九大助教授 今道 友信

「テレマック・トラベスチ」について

九大教授 佐藤 文樹

○（分校）佐藤（弓）助教授は一年間の予定でフランスのレンヌ大学に留学のため、九月中旬、横浜から出発された。

文学研究筆者別索引(筆者はABC順による) 括弧内は 輯号を示す

有田 忠郎 「悪の華」の統一性について(五一)

千代 正一郎 独逸的なるもの(三三)

福田良輔

奈良朝時代東国方言の成立について(上)(中)(下)
奈良朝時代東国方言に関する諸問題(四二)
—— 亀井孝氏金田一博士の批判に答えつつ ——

古事記の純漢文的構文の文章について(四)
筑前国志賀白水郎歌十首の作者の複数性について(四六)
—— 表現形式と伝誦性を中心 ——

古代語法存疑 —— エ列音の連体形 —— (四八)
古代語法存疑 (一) —— 久語法について —— (五〇)

奈良時代東国方言の周辺 —— 言語基層・八丈島方言・補説 —— (五三)

奈良時代東国方言の音韻状態(一) (五六)

古代日本語に現はれてゐる動詞型連用形の特異性について(五七)
古代日本語における複語尾の四段階「る」の一考察(五九)

今井源衛

花山院研究(その一、二) (五七、五八)
「八重葎」に就いて(五九)

春日和男

指定表現の様式——発生過程よりの考察——(五〇)
「花桜をる少将」における語彙——小弓その他——(五一)
下照姫の歌——歌格と提示法と——(五二)
「也」字の訓読考
——「なり」の表記としての「也」字——(五四)

聴覚および視覚による表現(上) (五六)
指定辞「たり」(雑考)(五七)
—— 特にその発生と用法と ——
草仮名による字音表記(五八)

春日政治

片仮名交り文の起源について(一)
古訓漫談(二)

「小学方言講義」より(四)
高野山にて観たる古点本——(七)

宇治拾遺物語の一本より(九)
金光明最勝王經註本一本の古点について(二四)
法王帝説読考(二一)

聖語蔵御本央掘魔羅經の字音点(二三)
古訓語彙小攷(三三)

一八五〇年和訳馬太伝(三六)

片山正雄

文学科概説(一)

国松孝二

愛と憎しみ「ニーチエと古典文学」の一章(三五)
運命への自覚(三六)

ドイツからの脱出
—— ニーチエの個人主義の基底について —— (三八)
ゲーテの革命劇をめぐって(三九)
ニーチエについて(四〇)

小島吉雄

明治初期の歌論(一)
宗祇の晩年(二)
新古今和歌集の選集態度と選集事業(五)
所謂石津本新古今和歌集に就いて(八)

<p>連歌に於ける美的情調 (一一・一二) 新古今集歌風の註釈問題 (一八) 春日博士所蔵二十一代集中の新古今和歌集に就いて (二三) 後鳥羽院の御文学 (二五) 新古今集写本に於ける選者名の頭書に就いて (二八) 新古今集伝本考 (三〇) わが国近世の運命悲劇 (三三) 見るに随いて (三四) 池袋清風の訳詩 (三五) 「奥の細道」覚書 (三七) 芭蕉の「荒海や」の句について (二) (三) (三八・三九) 歌集「みだれ髪」を論ず (四〇)</p>	<p>小 牧 健 夫 ヘルデルリーンのエトナ劇断片 (二) クライストの「公子ホンブルク」の一問題 (六・八) 銀の鈴 (一一) ゲーターの従軍記 (一五) ヘルデルリーンの半神観 (二二・二四・二六) 菜花行 (二三) クライスト随想 (二八) 独逸浪漫主義の諸問題 (三〇・三二) 正岡子規とレッシング (三三) 西芳寺の庭 (三五) われもまたアルカディアに (三六) 砂に書く (四〇)</p> <p>小 室 光 弘 土と文芸 (三三)</p> <p>前 川 俊 一 ワーズワースのソールズベリーティンタン旅行 (三七) ワーズワースに於ける自然観の進展 (三八)</p>	
<p>ワーズワース「辺境の徒」について (上(四〇)中(四二)下(四三)) バイロンの「ドン・デュアン」 (四二) 「壮大なる耳目の世界」 ワーズワースの空間感覚、其他について (上(四五)中(四五)) 英京雜記 (五二) ルーシー詩群について (五四) ワーズワースとデイヴィッド・ハートレーの哲学 (上(五七)下(五八)) コウルリッヂ「老水夫の歌」 (訳(五九))</p>	<p>松 枝 茂 夫 鏡花縁の話―異国廻りを中心として (二六) 蝶菴居士張岱 (二八) 菜天寥とその一家 (三〇) 醒世姻縁伝の話 (三二) 郝蘭泉の隨筆 (三三) 兒女英雄伝の面白さ (三四) 金聖英の水滸伝 (三五)</p>	<p>目 加 田 誠 填詞選釈 (一一) 民国以来中国新文学 (一四) 雅について (二〇) 白樂天の飄論詩 (二三) 郭詩考附東薪考 (二五) 詩經に詠はれた自然界 (二八) 陳磻甫い (二九) 春秋の断章賦詩に就いて (三一) 詩教 (三三) 文心雕龍 (三四・三五・四〇・四一・四七) 洛神賦 (三六)</p>

<p>六朝文芸に於ける「神」「氣」の問題 (三七) 詩格及び詩境に就いて (三八) 李笠翁の戯曲 (三九) 曹禹の戯曲 (四二) 王維—安史の乱と詩人たち— (四三) 楽府についての一考察—民歌と文人の詩との問題— (四五) 水滸伝解釈の問題 (五〇) 聞一多評伝 (五二) 警海花 (五四) 礼教喫人 (五六) 二人の宝玉 (五七) 九歌試訳 (五八)</p>	<p>謝恩 (三三) 森 永 隆</p>	<p>毛利 可 信 英国中世詩解釈ノート (五八) 中世英詩「シシリーのロバート」試訳 (五九)</p>	<p>永 田 英 一 ヴィニーの哲学詩について (三三) アンドレ・シエニエ (詩人の市民) (三五) スタール夫人「ルソーについて書簡」 (三六・四〇) ルソー「マルゼルブ氏への書簡」 (三八) ルソー「対話録」余聞 (四二) ダランベール「ジュネーヴ論」 (四四) ジュネーヴ市民 (四六) ルソーについて—— ルソー「学問芸術論」の背景 (四九) デイシヨン・アカデミー—— アンドレ・シエニエの政治的散文 (五〇・五五)</p>
<p>アンドレ・シエニエ書一 (五一) 二 (五六) アンドレ・シエニエとイギリス (五二) ルソー「ボームン殿下への書簡」 ——ジュネーヴとの関聯において—— (五三) ルソーとヴォルテール (其一) (五七)</p>	<p>中 村 幸 彦 西鶴における創作意識の推移 (五八) 江戸上方における童話本 (五九) 時代</p>	<p>中 山 竹 二 郎 「貧者の友」ウィリアム・ラングランド (一) イギリス中世の宗教劇 (五) イギリス古劇の詩形について (九) チョウウサアと現代英語 (一一) 散文韻律について (一九) チョウウサアに於ける措辞の特徴について (二二) ウェリイの英訳「源氏物語」 (二三) チョウウサアその生涯と性格 (二七) キャンタベリ巡礼の世界 (三〇) チョウウサアの二面性 (三三) 「サ・ガウエインと緑の騎士」について (三四) メリデイスの詩について (三五) チョウウサアの「トロイルとクリセイデ」 (三六) ソオロとその生活観 (三七) 英文学と貧困 (三八) イギリス宗教劇の世俗化 (三九) ウェイクフィールド劇「第二の羊飼の段」 (試訳) (四〇) 『ヨーク劇』「イサク人身御供の段」 (四二) ル・モルト・アルチュール (四四) 「頭韻式」モルト・アルチュールについて (四七)</p>	

憶出と偶感(五七)

成瀬正一

十八世紀に於ける文芸サロン(二・三)
新旧兩派の文芸論争(七)
モンテーニュと東洋の悟道(一六)
旅行報告書(一六)

西田越郎

シュティフターについて(四三)
ワルテル・フォン・デル・フォーゲルワイデについて(四五)
ワルテル・フォン・デル・フォーゲルワイデの *Flegel* と *Kreuzlied*(四六)
ゲオルク・ビュヒナー(四八・四九)
ワルターの宗教性について(五〇)
ハインリッヒ・フォン・モールゲン(五一)
——ミンネの一形態——
ヴァルター・フォン・デル・フォーゲルヴァイデ(五三・五五)
「パルチフアル」における *leit* の問題(五七)

野上豊一郎

杉田玄白とその周囲人達(一九)
使徒瞥見(三五)

小野島行忍

サツカ・パンハ・スツタンタ(二三)
リツ・サンハラ(一〇・一一・一三)
訳梵漫語(二三)
梵詩メーガ・ゾータ散文訳(二八・二九・三二)
草枕をそろごと(三三)
梵語奈留別誌(三四・三六)

笹月清美

天平八年の遺新羅使一行の歌(二三)

古事記の文芸的性質に類する認識の発展(一七)

文芸活動の機構(二一)

本居宣長における道と文芸(二三)

語意考の成立過程を示す二・三の伝本について(二六)

本居宣長の国語研究(二九)

小林歌城のテニヲハ説(三一)

富士谷御杖の言語理論について(三三)

夕顔(四〇)

佐藤通次

世界の劇性とゲーテの「フアウスト」(一)

雅歌(四)

生の悲極性(八・九)

「思う」と「考える」(一〇)

教・性・格と体験(一四・一六・一七)

「老と親」とについて(二一)

創世神話とわが民族の原体験(二三)

「生む」の論理的構造(二五)

「超」の事行論的解放(二七)

表現の二契機「見る」と「生む」と(二九)

文芸の志気「フアウスト」研究に寄せて(三二)

歴史と形態変化「ゲーテ研究の一齣」(三三)

創刊の頃(四〇)

重松泰雄

啄木の社会思想について(四三)

進藤誠一

「フィガロの結婚」とボーマルシエー(一)

ユーリエヌ・ラビッシュの喜劇(六)

スクリープの功罪(八・九・一一)

コメディー・フランセーズの沿革(一四・一五)

十九世紀中葉以後に於ける仏蘭西風俗劇(一八・二五)
日本に於けるコメディイ・フランセーズ(二三)

モリエールの結婚(二七)
マリヴォアの覚書(二九)

フランスに於けるイタリア人劇団の業績(三二・三四)
「ブリタニクス」から「五大力」へ(三三)

作者俳優(三五)
フランス最後の喜劇(三六)

モリエールの芸風について(ノート)(三九)
マダム・ド・ロングヴィルの生涯(四〇)(四五)

ルニヤールの喜劇(四三)
ランブイ侯夫人のサロン(四七・五〇)

中山さんと私(五七)

杉浦 正一郎

「奥の細道」制作心理(四一)

花屋日記の著者俳人文眺の研究(四三)

鷗外博士の俳句観、及び其の俳句について(四四)

九州蕉門の研究(一)『枯野家』と『漆野家集』(四五)

九州蕉門の研究(二)『漆川集』と筑前嘉穂俳壇について(四六)

死に近き芭蕉―芭蕉の曲翠宛新資料書簡を中心に―(四八)

九州蕉門俳諧史概説(四九)

芭蕉連句研究(一)「升買て」の巻(五〇)

芭蕉連句研究(二)「けふばかり」の巻・「芹焼や」の巻(五一)

芭蕉連句研究(三)「松風に」の巻(五三)

芭蕉連句研究(四)「此の里は」の巻(五五)

素堂の真蹟二種について(五六)

高木 市之助

吉野の鮎(二七)

国見放(三〇)

牡丹芳(三三)

玉島川仙媛放(三五)

酒仙供養(三六)

思出十年―私本位に書きつづるところの―(四〇)

高橋 義孝

芸術学、芸術史における没価値性の意味(四〇)

―ウエーバーの一論文を中心に―

トーマス・マンのプロイト論(四一・四二)

創造的余剰(四四)

「統一ヨーロッパ」意識の現代ドイツ文芸理論における諸反映(その一)(四五)

文学と社会との連続・非連続の問題(四六)

芸術は「進歩」するか(四九)

能の美学・序説(五〇)

ルカーチユの論文「上部構造としての文学」に対する批評(五一)

文学研究に対する「精神分析」の諸寄与その(一)(五五)その(二)(五六)

芸術的感動について(五七)

―文学研究に対する「精神分析」の諸寄与(その三)

メフィストフエレンス考(五八)

田中 晃

表現の構造(一六)

万葉歌人の国家思想(一八)

行為と哲学(二〇)

日本の現実主義と「もののはあれ」(二三)

生成の根拠としての自然(二五)

豊田 実

日本に於けるシエイクスピア紹介の歴史(一)

英吉利漂流邦訳考(四)

芥川龍之介とエドガ・アランポオ(七)

基督教聖書和訳の歴史(一二)

<p>故坪内博士の「英文学読本」(一二) 日本とシエイクスピア(一六) 日本に於ける英文法紹介及び研究の歴史(二〇) 俳句と英詩(二三) 生活、文化の反映としての英語史緒言の一節(二六) 言語起源の問題—英語史「第一部概観」の緒論—(二九) 言語を通じて見る英人祖先の生活—大陸時代—(三二) 日英語音の異同と国民性(三三) 人及び作家としてのシエイクスピア(三五) シエイクスピアの女性観(三六)</p>	<p>鶴久 上代特殊仮名遣の消滅過程について —「野」字の變遷をめぐって—</p>	<p>山内晋卿 六朝時代の展望(二) 牟子問題の清算(四・五・六) 王鳴盛氏の仏典観(二)</p>	<p>矢田部達郎 古語に於ける「てには」の意義(三二)</p>	<p>吉町義雄 「物類称呼」西国方言索引(一) 九州方言の特異性(二・三・五) 島津斎彬の「ローマ字日記」と長田穂積の「菊池俗言考」(七) 博多仁和加用語に現れた活用一段化趨勢(一〇) 日本語動詞現在時形態論(一五・一七・一九・二二・二四・二六) 九州方言四段変格活用動詞分布相(二三) 紫雲 山人鹿兒島方言文学四書抄(二八) 施福多「日本文庫及び日本文学研究提要」(三〇・三二)</p>
<p>奥都創刊日本語辞書(三三) 大和口上言葉集(三四) 上海刊行日本語文典(三五) 九州方言推量・打消助動詞活用分布相(三六) 「日本風俗備考」蘭日会話(三七) 九州方言指定・比況助動詞活用分布相(三八) 対馬字引「日暮芥草」府中語抄(四〇) 九州方言敬讓・希求助動詞活用分布相(四一) 「園翁交語」と「八丈実記」の鳥言葉(四二) イブン・マールクの千一行詩並語文法(四三・四七・五〇・五 四・五六・五九) 九州方言感動詞詛形分布相(四四) 九州方言代名詞詛形分布相(四八) 滑稽一寸見た夢物語(五二) 「欧弗亜旅行記」瑞日語彙(五七)</p>				

「文学研究」発行年月一覽表

第一輯	昭和七年三月	第廿五輯	昭和十四年六月
第二輯	昭和七年十月	第廿六輯	昭和十四年十二月
第三輯	昭和八年二月	第廿七輯	昭和十五年七月
第四輯	昭和八年三月	第廿八輯	昭和十六年三月
第五輯	昭和八年八月	第廿九輯	昭和十六年八月
第六輯	昭和八年十月	第三十輯	昭和十六年十二月
第七輯	昭和九年一月	第卅一輯	昭和十七年六月
第八輯	昭和九年五月	第卅二輯	昭和十七年十二月
第九輯	昭和九年十月	第卅三輯	昭和十八年十二月
第十輯	昭和九年十二月	第卅四輯	昭和二十年三月
第十一輯	昭和十年四月	第卅五輯	昭和廿一年三月
第十二輯	昭和十年七月	第卅六輯	昭和廿三年三月
第十三輯	昭和十年十月	第卅七輯	昭和廿三年十二月
第十四輯	昭和十年十二月	第卅八輯	昭和廿四年十二月
第十五輯	昭和十一年四月	第卅九輯	昭和廿五年三月
第十六輯	昭和十一年七月	第四十輯	昭和廿五年十一月
第十七輯	昭和十一年十月	第卅一輯	昭和廿六年三月
第十八輯	昭和十一年十二月	第卅二輯	昭和廿六年十一月
第十九輯	昭和十二年五月	第卅三輯	昭和廿七年三月
第二十輯	昭和十二年十月	第卅四輯	昭和廿七年十二月
第廿一輯	昭和十二年十一月	第卅五輯	昭和廿八年三月
第廿二輯	昭和十三年三月	第卅六輯	昭和廿八年八月
第廿三輯	昭和十三年十月	第卅七輯	昭和廿八年十二月
第廿四輯	昭和十三年十二月	第卅八輯	昭和廿九年三月

第卅九輯	昭和廿九年七月
第四十輯	昭和廿九年十二月
第卅一輯	昭和三十年三月
第卅二輯	昭和三十年六月
第卅三輯	昭和三十年十二月
第卅四輯	昭和三十一年三月
第卅五輯	昭和三十一年九月
第卅六輯	昭和三十二年七月
第卅七輯	昭和三十三年三月
第卅八輯	昭和三十四年七月
第卅九輯	昭和三十五年二月

受贈図書

- 日本文学学 (日本文学協会)
 立命館文学 (立命館大学)
 法文学志林 (法政大学図書館)
 学習院大学国語国文学会誌 (学習院大学)
 経済月報 (住友銀行)
 愛知大学文学論叢 (愛知大学文学会)
 国語国文学 (京都大学国文学会)
 アメリカーナ (米国大使館)
 文化学 (東北大学文学部)
 東京経済大学誌 (東京経済大学)
 人文研究 (大阪市立大学文学会)
 音声学会報 (日本音声学会)
 言語と文芸 (東京教育大学)
 経済指標の見方と利用法 (住友銀行)
 郷土文化 (名古屋郷土文化会)
 哲学研究 (京都大学哲学会)
 愛知県立女子大学説林 (愛知女子大学)
 文芸と思想 (福岡女子大学)
 アテネウム (アテネウム社)
 一橋論叢 (一橋大学)
 日本民俗学会報 (日本民俗学会)
 人文論究 (関西学院大学人文学会)

- 国文学研究 (早稲田大学国文学会)
 甲南大学文学会論集 (甲南大学)
 徳島大学芸紀要 (徳島大学)
 金融経済手帳 (住友銀行)
 Sumitomo Bank Review (同)
 人文学 (京都大学教養部)
 社会科学論集 (東京教育大学)
 万葉 (万葉学会)
 基督教研究 (同志社大学基督教研究会)
 天理大学研究報 (天理大学人文学会)
 論究日本文学 (立命館大学日本文学会)
 商大論叢 (神戸商科大学)
 古代西道考 (山根 達治)
 人文学 (同志社大学人文学会)
 東京支那学報 (東大文学部東京支那学会)
 大正大学研究紀要 (大正大学)
 日本文化 (天理大学)
 神戸外大論叢 (神戸外国語大学)
 Regards (東北大学)
 大阪府立大学紀要 (大阪府立大学)
 日本文学法要 (法政大学)
 尖塔 (クラブ尖塔)